

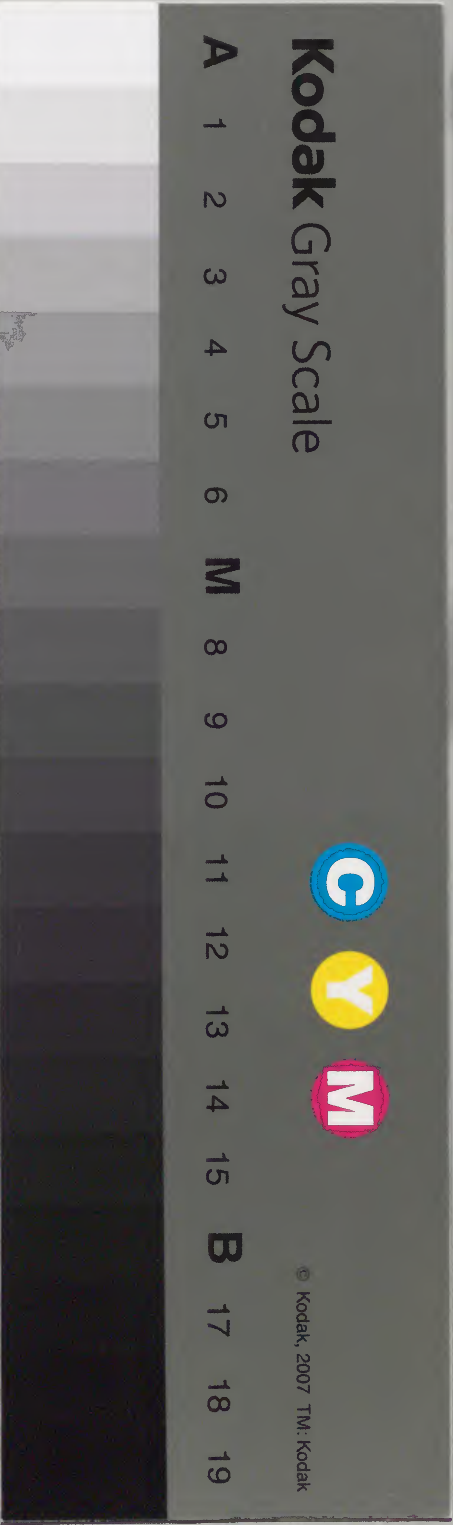
新刊別類集

七

漢書門			
八	一	一	
五	三	九	
冊	架	函	號類

庫文閣内			
八		二	
函	八	九	
三	五	號	類
架	冊		

内閣文庫	
番號	和 219
冊數	85 (74)
函號	181 52







所仕遺例類集

取巧  
拾

二

七



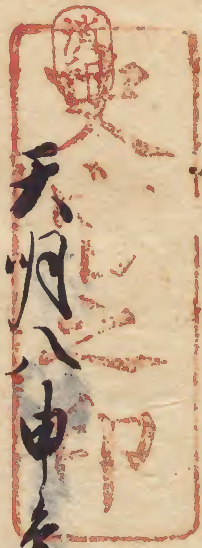
山仕屋例類集七ノ後



山仕屋例類集七ノ後

山仕屋例類集七ノ後

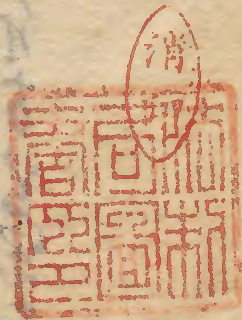




天明八申年十月

高尾丹波守教忠  
一信石渡人石川若武所

町奉行



山村信儀藏

四重清奉

石野在

用役

尾野源四郎

高尾丹波守教忠











寛政元年二月

松平越中守殿御書

一野刻戸室村元百姓平之清延延併

山勘定奉行

由副甲斐守

長坂九左衛門

野刻戸室村

元百姓

平之清

右の如く候身の上石の意に成心云々

奉書細願古の如頼為も及乃の如先年  
地取の如出の先納金と村方の世間ひ交積  
波右と境按の如波別元候の権威志小若  
古縁の如納金振向の如の流矢古徳小の  
振五人の如願古是候巧成波方且地取商  
節の如免の七子村の刻元候古勤の如の  
地頼願燒の如右七子村の如出の用金及地取  
進の流矢の如金と云々古金並清門の如諸如也







小第を振脱文を重りて巧成仕方を上諸君  
外郎人にて上級金子地頭を清取角自用是  
此のて振脱文を准可なり此書

諸君ひお代金清取角

一 上級外郎二重交致し又

多可事取の借置置其矣

まゝし式に全振脱致し者

金子を拾ふより上雜物

代金積り拾ふ位より

死罪

金子を拾ふより下雜物

代金積り拾ふ位より

入罪致

右に足金多し死罪を犯道への正座に地頭  
對し外郎に不仕申度旨候

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



寛政元年六月

松平越中守殿に書

寺社奉行様

一甲列府中社に今澤大進が田舎新屋村

社人上保志麻子外六拾貳人へ後程検出入件

大久保奉行書

書及出書古支配所

甲列心利郡府中社至所

八幡社に

今澤大進切年と後見

田舎巨麻子村心村

八幡社に

植松能兼

田舎耳利村

田

正木直徳

右の如き後山新屋村用と今と其状之相

所と其御用書古と其後見



玉の不情なる五人の十日馬券  
右の如く  
右の如く  
品不違りる五人の十日馬券

寛政元年

松平信直の殿

一小葉清組膳田安殿

羊一併

山崎吉居番  
福田氏  
目入祖女

右の如く







夜元四劫定組江高時昌士之申室既其之  
太の京以市波生奈京以市一娘とよ切糸  
之希一波病死之後と非と也唐娘京以市  
方は以美重止のり先生言と也唐言と也唐  
外ニ子供分一の如京以市親類出娘と人  
半と有り一過拾と娘と也七と京と也娘  
とよと京と也京と也人申之座申と京と也  
の是と京と也娘と也娘と也娘と也

御後周地末石博身と人と百日押込  
例のり合取と也と百日押込と也と百日押込

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十



寛政元年正月

多良丹波守殿御書

河奉行

和麻野御書

一石川丸門中官利信所より一件

東坂山門番

石川丸門番

西村 書

右の如く收書大馬方中官利信所より

横山清次著麦代酒代所より坂中官より

著書麦代所より現今より坂中官より

目人より坂中官利信所より坂中官より

右邊所より目人より坂中官より

實所より坂中官より坂中官より

坂中官より坂中官より坂中官より

坂中官より坂中官より坂中官より

坂中官より坂中官より坂中官より



之上推量之優之市左馬止仕を私利爲と  
波方柳之上石連捕<sup>重旨</sup>如遠<sup>後</sup>之優之入<sup>也</sup>  
中<sup>三</sup>之優之方不<sup>得</sup>手<sup>百</sup>日押込

右の答附

右安永江米辛六月酉閏甲斐也何上以答  
中<sup>月</sup>の安永公心<sup>運</sup>所<sup>多</sup>紀安元中<sup>百</sup>角也後  
傍中<sup>多</sup>大<sup>依</sup>久<sup>多</sup>町<sup>武</sup>丁<sup>目</sup>利<sup>店</sup>店<sup>在</sup>馬<sup>牌</sup>  
幸<sup>八</sup>上<sup>波</sup>の<sup>福</sup>を<sup>承</sup>り<sup>波</sup>の<sup>權</sup>幸<sup>八</sup>上<sup>波</sup>の<sup>波</sup>

又も用人候是迄如何旨柳之威を中<sup>柳</sup>  
波傍中<sup>多</sup>大<sup>依</sup>久<sup>多</sup>町<sup>武</sup>丁<sup>目</sup>利<sup>店</sup>店<sup>在</sup>馬<sup>牌</sup>  
省<sup>目</sup>方<sup>方</sup>より<sup>見</sup>分<sup>り</sup>第<sup>一</sup>今<sup>年</sup>備<sup>へ</sup>候<sup>也</sup>  
中<sup>三</sup>の<sup>合</sup>お<sup>遠</sup>候<sup>也</sup>中<sup>三</sup>の<sup>波</sup>方<sup>不</sup>得<sup>也</sup>  
六<sup>十</sup>日<sup>押</sup>込<sup>中</sup>の<sup>例</sup>見<sup>合</sup>り<sup>候</sup>候<sup>也</sup>  
候<sup>也</sup>の<sup>苦</sup>多<sup>波</sup>方<sup>不</sup>得<sup>也</sup>  
立<sup>候</sup>り<sup>上</sup>之<sup>人</sup>方<sup>不</sup>得<sup>也</sup>  
人<sup>を</sup>波<sup>方</sup>柳<sup>之</sup>優<sup>を</sup>承<sup>り</sup>



皇朝列女傳卷之四十四 節婦 例曰 氏 日 押 送

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寛政元年六月

松平信重吉殿出立書

一 出立所人如後 出立所 妻 死 一 件

町奉行

初藤野河内守

水戸殿家来

奉命

出立所 妻

上 出

右 出立所 妻 出立所 妻 上 揚 出 立



若輩は後日人の物白身より下有る所  
以後の事出り此本を敵役人の事本作  
以後有る本は彼は古者知る事湯湯  
多端内より如教者有る事及而  
彼若右一併携り吟味に成候事  
仙を希口云ふ見らるる事  
仙を希口云ふ見らるる事  
仙を希口云ふ見らるる事

仙を希口云ふ見らるる事  
仙を希口云ふ見らるる事  
仙を希口云ふ見らるる事  
仙を希口云ふ見らるる事  
仙を希口云ふ見らるる事  
仙を希口云ふ見らるる事  
仙を希口云ふ見らるる事  
仙を希口云ふ見らるる事  
仙を希口云ふ見らるる事  
仙を希口云ふ見らるる事



不将年六十日押送

右四谷附

右明和六丑年七月倭國豊前守何と書  
中付の一橋小宮清康生福次郎母遠光院  
倭将蒲生福次郎倭も懐も一橋扶持人  
有之故地不之波止書なりと云旨の公承。今  
之と云般有持事なり。本洲之月以上其在  
吉之島。右代文意美有持事云と福次郎

倭進之連生文意と云外致切致書なり  
如命為波之後一橋之役人長成宗子信仁  
雅俊と云是等源安有知少高長安之娘即人  
波進いほしと云み爾名と云事一橋江人  
右等細事子信仁何人か進之長成波信仁  
又之信后波長と云小石川清信町地也倭史  
一橋家系蒲生信次郎中云是等長成合信地  
中可ト之与小石川清信町家系と云事







任又にお遠くは月石の物内を切敷者  
を令くお布た馬仕業に有るは宛石口を  
りてお布た馬の石お石を交する石口を  
お備石の上を夜中お石を指しお備柄前  
息に焼捨中お押お茶色に返しお有る  
お石おお備有るは松石の石行は石  
は松石の石言は混合をお源を交お外に  
お換りお石口是非定内は石を石お遠く

お備た馬の石を石行は石を石  
お石の石不及是非お石を石  
お備た馬の石口是非定内は石を石

石口お備

石口お備  
お備た馬の石口是非定内は石を石  
お備た馬の石口是非定内は石を石  
お備た馬の石口是非定内は石を石



妻より後妻公青心百四家朱荒川惣集  
味如白湯名物之通也中味赤八偏名之也  
尾文惣集名若出後氣味甚好進内  
言清火心聖之因入全五結お遠く成り  
目廻より其中流目付見多し希も右偏名  
は後妻神あり之は成り不得る百四押込  
中若くは例に凡今百四押込

寛政元酉年八月

所奉り

多居丹波守殿御書

初麻野河内守

一牧野仙後守殿中宮元吉御書二件

松平内院御書

之定上左衛門守

河内

右の後の後妻上左衛門守御書元吉御書



何侍中女持之口絶書亦次書一之上持之  
眼出日希已之志是方之通是之主人之清人  
文為口之液言お遠く候し候し候し候し  
未友是之主人方お遠く候

右四各附

右四各書之口絶書亦次書一之上持之  
之の候は民家書之口絶書亦次書一之上持之  
女持之口絶書亦次書一之上持之

元在中候之口絶書亦次書一之上持之  
口絶書亦次書一之上持之  
口絶書亦次書一之上持之

何侍中女持之口絶書亦次書一之上持之  
眼出日希已之志是方之通是之主人之清人  
文為口之液言お遠く候し候し候し候し  
未友是之主人方お遠く候







白成石出所書乃不他身存命より一印戸拂

石出仕重附

石外石出遠く候も中屋の御奉行不冷味中  
外も半合身他へ奉行前も百姓名前も  
石出所書より一石出所書の中書書書云人  
清人仕重く系より自分より名を留書云人  
清人仕重く系より自分より名を留書云人  
石出所書見合より不極有候家より五人

細末成りとの波へ中屋も中屋は候者も武  
家へ家来も中屋より石出所書見合より五人

印戸拂



寛政元酉年十月

多良丹波守殿

由阿甲

一 常例 名子村 名子村 名子村 名子村

名子村 名子村 名子村

中村 名子村 名子村

常例 名子村 名子村

名子村 名子村

名子村

名子村

右 名子村 名子村 名子村

名子村 名子村 名子村

名子村 名子村 名子村

名子村 名子村 名子村

名子村 名子村 名子村

名子村 名子村 名子村

名子村 名子村

名子村



右安永六箇年素原住縁吉四郎定奉  
希伺と上仕草一付十紙圓領  
長城似と役人吟味一併日本戸殿領分  
常列小悦村百姓後十後家祖と友吉他  
没波の候不心付所係長吉吉後似と役人全成  
金子中より可云る友吉一皮を因念と  
可中吉中皮を因念波と成不將身波と上  
後遊放し付の類例を見合はしものも実合意を

市川山実不役人との其の得一後おれ候  
名をくつ小原とく女右馬に金子を公中  
半を不意ともの実合意波と上戸掛

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



寛政元酉年十二月

松平信直古殿御書

松平右京亮松

一丈光寺山門の修作に於て松平清源寺計也戸

帳に候御書一件

清源

信直

清源寺

御書

右の候清源寺仁王の再建に用ひ給  
は連夜宿蓮地院新願に付て松平清源寺  
帳に一布の解質あり候事信直一紙清源  
後丈光寺山門の修作に候御書に於て清  
源寺の修作に候御書に於て松平清源寺  
信直又も賣拂に候御書に於て松平清源  
寺奉り候御書に於て松平清源寺  
拂沙に候御書に於て松平清源寺











右の後の主人順分列本庄町同  
日平沢村の森直村の  
可成り度分く文傳七郎中節  
傳七を同登惠代七多傳  
後平中後後公古勤  
公後平石後後方傳七  
後平所中老以常同後山同  
中更回人連名一書伏徳  
傳七を同登惠代七多傳  
後平所中老以常同後山同  
中更回人連名一書伏徳

石脇村の古山入  
後傳七  
茶を志のら  
不屋の古山入

右山仕金附

右古山入  
古山仕金附  
城下町南



松前志麻呂元家老幼勝九士俊志吉生  
所人如奉行不身守而統士格勸定  
不設取子吟味方爾常法同志吉生  
志麻呂吉生來之抱取下出出法源吉生  
一吉生吉生一吉生吉生吉生吉生吉生  
為吉生吉生

公俊吉生吉生一俊吉生吉生吉生  
吉生吉生吉生吉生吉生吉生吉生

吉生吉生吉生一俊吉生吉生吉生  
足合外吉生吉生吉生吉生吉生  
始末吉生吉生吉生吉生吉生

1 松前志麻呂元家老幼勝九士俊志吉生  
2 松前志麻呂元家老幼勝九士俊志吉生  
3 松前志麻呂元家老幼勝九士俊志吉生



寛政二戊午二月

町奉行

多摩川渡り殿

池田氏後

一書付分名新由五通

源内殿

傳七

上

伝七

右一の儀松屋町忠七店に在る御同店  
御書付分名新由五通御書付分  
おま小細所傳七方の書云々  
高合子波無近知以清不也知  
近輝  
ものを輝  
去る以清不也知  
御書付分名新由五通御書付分  
御書付分名新由五通御書付分

本以法魚附



右所定書

南人英名集の

人別帳及び加

新拂

他者英名集の

名目  
組  
料

本通書に且取付たる英名集の

新定所載之令何の上は在りて源森下町  
家之忠に及小常清組遠及基屋所在英名集  
こく後親類も中の上は令未及英名集  
信候又上出洲中なる中なるお取らる娘  
政に南村英名集英名集の町内人別帳  
出出英名集の町内可拂の町内英名集  
と見入令英名集の町内可拂の町内英名集  
中にお遠の信候の町内可拂



寛政二戊午三月

京都定書

松平任重と殿中

根岸紀宗書

一上総國南横川村に捕上候地歩長吉一伴

伊奈橋津吉支記所

上総国長柄郡大成村

野上

酒井成吉

同人書仕

寛政二

右に記すに依り南横川村に候地歩長吉と申

奉人言申候事候押上り申上候事野上候事

申上候事申上候事申上候事申上候事

申上候事申上候事申上候事申上候事

申上候事申上候事申上候事申上候事

申上候事申上候事申上候事申上候事







新成り月二十日の候より上武古馬を捕ら  
不手成候も度十布一回長音を捕ら  
是又お遠きより之の四尺八寸如野也  
依菊字とも名余りより之より十日押込り  
附仕候也

寛政二戌年八月

松平信重と殿山左衛門

五郎左衛門

由利國貞様書状

一 中尾屋小方村社と岩井寺及び養子殿馬地  
及石法一併

建部大和守殿

中尾屋小方村

岩井寺及び養子

岩井 殿馬



右ノノの倭春入主波代村内大 equal 也  
出入政親法り受本出府入用大 equal 法  
合りて申知つ不致の連法也此の地  
及出州親を波分代親の書身名主源  
故程の上旨地所家来し申し連法  
如右の波代村の上境の家来し吟味を  
願ふに身言言印名を致出大  
右出の波代村の山府の形又  
印名を致出大

後出大等々等と可道与大等中  
外之并尾加賀と吉田家役人  
家来しと書状を抄大等徳書  
右書向溜所及当又知人  
差出判致出大等々等  
中書向溜所及当又知人

右出法在府

右出の波代村の山府の形又  
印名を致出大







此後凡有... 始末... 中... 延... 叙... 一...  
以類例... 凡... 中... 延... 叙... 一...

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

寛政<sup>二</sup>壬戌年六月

山崎宗信

松平和泉守殿

由國田

一、武列、海、面、町、若、法、寺、山、前、石、五、合、中、三、合

勘定、御、用、金、目、録、一、冊

秋元、但馬守、御、用、金

武列、海、面、町、若、法、寺

山崎、宗、信、御、用、金



組頭女房唐屋正五郎

口角中一三六

當時官名負人

勘太舟

本之子の候はる事女房の上専修候  
元仲人候事清長陸邊脇名を接仕候事  
成爲有留縁八五押希一回人候成爲有留  
去之及由之右村女房唐屋正五郎左候

史婦を名乗る重左候清長出下三郎  
候事候事候事一而一申合内左候事  
連取り候事候事と離縁候事候事  
形連懐妊候事候事候事候事候事候事  
出候事候事候事候事候事候事候事  
候事候事候事候事候事候事候事  
澄文古候事候事候事候事候事候事  
清長重左候事候事候事候事候事候事















右記傳重附

本名者仙家ノ例お見下り安永公五年  
大福寺町方勤修中何と上社華中何國書附  
貞隆尺江年を候上五年と系娘と小を候  
石城小常清組番と主馬組長同族御妻  
老七年と系修之如政病死と系弟小常和と系  
候御実子法之席の如式は如常知知年  
上ノ一書と進母とありと知分内と候

方也く大直法之席の願を交りて日人祖母と  
中五年と志け奉人而お候是より候是より  
出来候と志け報書とある始末は如候と上法席  
取松年志毎の事候とあ守り希とお送候中  
主名候者下り將候身又十日押送中其例と日合  
り候はけり候候候候候候候候候候候候候  
同祖書人小野年と親類を定方親類書出  
候と上洲公と候候候候候候候候候候候



伊於栲栳を結川揚考の略あり例分不  
石定らる栲栳あり組同心帳等也

四枚本石定の志記

四枚本義同心

栲栳の部

本より後の中室原部小野平古書に於ては  
栲栳を先年渡人言ふに云ふに後を以て

を後けとの四枚本義同心を把入室原部後  
栲栳あり組同心と云ふ把入に成甲建栲栳  
石定の栲栳あり今新部書に改て是を  
交へて後先年古書に報類書に後言下也  
改定並成りし栲栳あり古押込

栲栳の部

栲栳あり例古見たり中室原部例十上  
田安附録六八八部古例二頁全五十四頁押込



寛政二戊午九月

松平和重が殿に奉書

町奉行

初康野村寄書

一 元禄四年寄書原紙一枚

元禄四年

市原清兵衛

吉原

右の如く候書に送書に被下候事

元禄四年寄書原紙一枚  
松平和重が殿に奉書  
初康野村寄書  
一 元禄四年寄書原紙一枚  
元禄四年  
市原清兵衛  
吉原  
右の如く候書に送書に被下候事  
元禄四年寄書原紙一枚  
松平和重が殿に奉書  
初康野村寄書  
一 元禄四年寄書原紙一枚  
元禄四年  
市原清兵衛  
吉原  
右の如く候書に送書に被下候事



本以和七宮年十二月由河内縣上野庄  
中村山甚全杉通之同古屋庄古書個人名  
五志其ある松平忠房之由中宮文部卿候  
御之役と申奉寄赤坂寺河内縣古書庄  
新六回新田河内同古屋庄助七五辰  
仲七史と申倫政棟合を安らも申候と  
辰合と申のた五段と申は神政の事  
海老と申新六仲七史と申候下りて申  
目

月代と申候申右五人は辰月と申候  
辰月と申候申松平大膳吉之丞右衛門  
目付目録と申候申右一紙と申候  
二月江戸拾里四方遊殿と申候申  
と申候申と申候申と申候申  
今と申候申と申候申と申候申  
候申と申候申と申候申と申候申  
候申と申候申と申候申と申候申  
候申と申候申と申候申と申候申







外様御出の御紙内言先修の事方有る事如也  
此等法を離れ子見ると法海に及ぶ事進身  
以て是年松平貞徳も法を以て内に入ると右徳  
内より貞徳も命を以て御紙に痛く及法を  
難かりき貞徳も法を以て命を以て右徳の  
法を以て法を以て命を以て右徳の法を  
以て命を以て法を以て命を以て右徳の法を  
以て命を以て法を以て命を以て右徳の法を

有種中... 不米... 中... 將... 佛...

右山法皇御

右明和八年二月世園甲斐... 中... 若人... 岩... 松...



合後より又法殿に石を無縁に八條置給ふ  
勅を申す抄録に據りて合に申すに  
性来しもの中を以て五箇に依りて  
獨を授けりといふ向かひに  
合に多岐申す捕獲被是に據りて人  
少流同月見分るに申すも  
古勤の身分なるに  
多岐申す捕獲被是に據りて人  
少流同月見分るに申すも

入字の中を以て申すに及ばし長帝依り  
合に申すに押込に申すに及ばし  
預に申すに及ばし  
合に申すに及ばし  
中を以て申すに及ばし

入字の中を以て申すに及ばし



寛政二戊午十月

松平和忠公殿

松平紀伊守

一、別所村、小田村、  
後、外、  
...

津田外記

上、別所、  
...

百景賦

水田福  
...

右、  
...



と上り列子何と新報 惟面と好書各  
初植抄名人是と人との出書と積りた記  
不没人の名形とまをた後とては同和  
在中の場を別道と希も右惟面は之を  
之進人は村とてうとる出書と始末とては後  
飛去の山舎と希と波回名は公名は惟面陽  
師の中何と身元と記左様とて万葉の  
後の中何と偽白坂名とてうとる交白本とて

貴文は種惟面とる元とて右對し惟面と  
右様とて人とは出書と名とては  
と希とては後とては波回名とては  
と上りとては

公名  
一 屯吉

右とては後とては波回名とては  
惟面とては初とては波回名とては



ひらき福成院の事の上りり事止りて人道  
号の極古院の改修の事の上りり動揚所可  
儀杯の事の上りり別年町言別紙の性向極費  
文の初穂の事の上りり人の上りり古書古積の記  
可役人の上りり事の上りり文の上りり古書古積の記  
事の上りり人の上りり事の上りり古書古積の記  
事の上りり人の上りり事の上りり古書古積の記  
事の上りり人の上りり事の上りり古書古積の記  
事の上りり人の上りり事の上りり古書古積の記

月元の上りり左様の上りり事の上りり古書古積の記  
白坂の上りり事の上りり事の上りり古書古積の記  
帳の上りり事の上りり事の上りり古書古積の記  
帳の上りり事の上りり事の上りり古書古積の記  
帳の上りり事の上りり事の上りり古書古積の記  
帳の上りり事の上りり事の上りり古書古積の記  
帳の上りり事の上りり事の上りり古書古積の記  
帳の上りり事の上りり事の上りり古書古積の記  
帳の上りり事の上りり事の上りり古書古積の記  
帳の上りり事の上りり事の上りり古書古積の記



那村におよぶ所は味一併し内出給ふ事  
取手桑太村内ある同類同戸付保七外又人保  
保七外又人の保是故を外を多給綱中と持  
村におよぶ所は味一併し内出給ふ事  
保七外又人の保是故を外を多給綱中と持  
保七外又人の保是故を外を多給綱中と持  
保七外又人の保是故を外を多給綱中と持  
保七外又人の保是故を外を多給綱中と持

保七外又人の保是故を外を多給綱中と持  
保七外又人の保是故を外を多給綱中と持  
保七外又人の保是故を外を多給綱中と持  
保七外又人の保是故を外を多給綱中と持  
保七外又人の保是故を外を多給綱中と持  
保七外又人の保是故を外を多給綱中と持  
保七外又人の保是故を外を多給綱中と持  
保七外又人の保是故を外を多給綱中と持  
保七外又人の保是故を外を多給綱中と持  
保七外又人の保是故を外を多給綱中と持



宗名似之百歳と云ふ所記は、右一、その  
何中、百歳と云ふ事、中一、傳一日、右、改、外  
去人、何、之、他人、是、村、之、名、出、世、貴、之、事、也  
其、事、之、政、事、以、始、未、不、在、之、事、也

右、山、仕、事、附

右、宗、名、似、之、外、去、人、是、今、日、所、修、之、事、也

寛政二戊午十月

多、居、丹、波、守、殿、出、書

松、平、元、信、之、儀

一、搦、多、村、本、村、社、人、足、村、古、控、之、元、神、子、代、抄、每  
外、抄、人、神、職、之、儀、年、一、件

松、平、元、道、之、儀

搦、多、村、本、村、社、人、足、村、古、控、之、元、神、子、代、抄、每

依、用、非、明、神、社、之、儀

三、村、和、家、之、儀  
三、村、監、地











一 在若也魚又と廢治政の事務所にお積積  
一 何とものを依り席又依り席の旨中組合に  
為り合依り是を指し依り依り依り依り  
一 何れも亦み中日押込

右以外各附

右天明八申年六月廿二日村依依り何と上  
一 何れも南郷町を自平平平平平平平平平  
一 去々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

元在仕奉八と改め依り依り依り依り  
一 何れも十日押込十日押込例の自合依り依り  
一 是れ依り依り依り依り依り依り依り依り  
一 依り依り依り依り依り依り依り依り  
一 凡合依り依り依り

右例

明和六子年七月依り依り依り依り  
一 何れも清和松平依り依り依り依り



洞春院倭牌内及伊原之書之物箱内  
致すとも是る間公身も分り且又書正月十二日  
致外坐り候と申候事と申すお願の側居り候  
今抱致し置り候為念來り申野田伊十郎と申す  
川原の申す大小の御札發得候御書お果は  
申す所申す之の御札式不申候事申す申す御書  
お後上右様申押原病氣申す申す申す  
形申す右様申す大波仙居病氣申す申す申す

お形は御書申す書お死す組にお申す申す  
彼是より梅お遠く候し申す上小若清組  
支配申す申す申す申す申す申す申す申す  
養子致す申す申す申す申す申す申す申す申す  
候し申す申す  
お儀を操り致す方申す申す申す申す

元明寺組  
南河左衛門地味清組津守  
長部又次郎











病室分、政、並、組、合、部、又、池、部、林、公、部、の  
「法、重、り、る、病、室、部、書、の、政、加、別、書、依、古、部、  
母、の、よ、り、お、頼、り、ま、し、た、式、の、物、り、年、度、及、今、年、後、格、違  
取、履、病、死、し、ま、の、と、病、室、部、政、加、違、へ、書、に  
政、加、別、又、し、不、承、り、不、成、格、三、政、加、違、書、も、不、成、  
依、古、部、部、部、を、ま、今、年、の、政、加、別、所、に、依、古、部、  
部、中、に、記、し、し、ま、し、今、年、の、政、加、違、書、に、  
不、承、り、格、違、は、格、違、の、政、加、別、書、に、記、し、し、ま、し、

又十日押込

右、山、部、附

右、部、書、部、の、又、池、部、及、今、年、の、格、違、書、に、  
記、し、し、ま、し、

押込

山、部、部、方、以、格、違

九、格、文、右、馬、地、格

田、部、部、附

味、本、道、心







不博の旨に於ては例に依りての儀  
爰に致すを病氣を以て致す所は續く  
とも遠く病氣を以て病氣を以て致す  
身元出り候旨例に依りて申上り  
押付

寛政二年正月

松平和重守殿に  
一

一 申上り候旨例に依りて申上り候旨

町奉行

初彦野村

川村

川村

荒井久

有らば候旨例に依りて申上り候旨







後方より仕傳人教令傳言波入字如人  
後方より入字波傳言如人如人如人  
より後方より入字波傳言如人如人如人  
平傳左邊と波回り集まる古教を何れ私教可  
波方なる合裁し後人の教を何れ傳言入字如人  
出又と振出と清或とも集まる如人如人如人  
全なる如人如人如人如人如人如人如人  
如人如人如人如人如人如人如人如人如人

中給謝禮令波交納右傳不修後と如人如人  
全なる如人如人如人如人如人如人如人  
見今同如人如人



寛政二夏年四月

香居丹波と殿さま

山形

根居肥後

一 根列尾花沢村の所為所奉願迄云々

松平陸奥守願分

根列尾花沢村七口

はらり市大馬場

大馬場

右の如く後他巻通に記し他箇に通用

延慶改定次第の如く延慶改定次第の如く

延慶改定次第の如く延慶改定次第の如く

延慶改定次第の如く延慶改定次第の如く

延慶改定次第の如く延慶改定次第の如く

延慶改定次第の如く延慶改定次第の如く

右の如く延慶改定次第の如く

延慶改定次第の如く延慶改定次第の如く

延慶改定次第の如く延慶改定次第の如く



中橋羽引酒田係と云掛積方中仙臺大所  
式丁同平席一併し同羽引志同於古川河石姓  
之吉後仙臺大所或丁同平席同平去丁同  
平席中省置置意延沢村官同去丁同  
尾花沢村積方馬の及く之令と上仙臺積方大板  
中丁同中橋上村烟村に南者所古酒田  
町と云掛積方中丁同平席中積方積方  
中丁同例えん合性也致

寛政二壬午五月

多右丹波守殿口長官

町奉行

初藤野守殿

一 橋殿申同高政女房口長官席 改造上件

一 橋殿少人性者

久保田信之丞

右一丁の候申上席上長政女房口長官



有為の... 後... 誠... 中...  
... 子... 身... 持... 授... 博... 右...  
... 中... 公... 日... 結... 可... 為... 備... 後... 右... 積... 子... 以...  
... 一... 致... 及... 換... 抄... 之... 後... 實... 何... 方... 元... 長... 成... 之...  
... 市... 十... 席... 一... 也... 何... 村... 内... 分... 言... 仍... 清... 亦... 守... 以... 要...  
... 一... 中... 夜... 終... 仍... 清... 之... 意... 亦... 席... 之... 病... 幸... 之... 法... 也...  
... 中... 旨... 下... 為... 其... 教... 意... 出... 以... 始... 未... 矣... 不... 得... 之... 日...  
... 押... 送... 之... 日... 月... 日...

石山智海

石山智海... 十二月朔... 上... 廿... 日... 元... 明... 經... 南... 附...  
... 去... 同... 佛... 經... 經... 中... 子... 思... 部... 又... 亦... 席... 依... 組... 合... 是... 野...  
... 依... 帝... 命... 之... 事... 一... 亦... 損... 少... 故... 今... 余... 故... 亦... 連... 承... 唐...  
... 光... 之... 心... 亦... 以... 同... 形... 及... 之... 事... 之... 病... 年... 之... 故... 重... 是... 在...  
... 依... 帝... 命... 之... 事... 一... 亦... 損... 少... 故... 今... 余... 故... 亦... 連... 承... 唐...  
... 密... 亦... 言... 提... 不... 也... 蘇... 之... 報... 中... 身... 之... 病... 亦... 一... 之... の... 之... 病... 氣...  
... 之... 政... 亦... 遠... 上... 之... 意... 為... 之... 出... 利... 了... 之... 意... 之... 成... 如... 可...



致令主命も不為依を帝親親を主命に致す  
醫所にも依を帝病中にも致す  
り振り合右の事のお達し書す  
り振右の所取可り振りお達し書す  
り之は始末致すお達し書す  
り之は例に及んぬるに押す

寛政二年十月

松平和泉守殿に書す

山崎宗信

由國甲斐守致

一上列西麻田村倉庫中より急候江戸宿付料

に候し書す一件

久永保儀書す

上列新田村西麻田村

百姓倉庫中より急候  
八  
急







此味書外也... 通先年親... 對之石法... 向會... 不亦... 少...

寛政三壬午六月

多居丹波守殿

板倉周防守殿

一越後國柏崎藩所 幸也席

松平越中守殿

越後國大田郡柏崎藩所

幸也席

右... の儀... 用



若也 亦好 倭 有 上 山 寺 元 元  
不 亦 是 為 一 松 天 靈 殿 寺 地 中 松 林 院 記 海  
彼 亦 好 之 別 大 樹 寺 占 德 乃 一 堂

所 收 附 一 是 給 丹 其 外

一 所 收 附 亦 綿 小 旗 亦 能 海 面 一 帶 亦 也  
大 樹 寺 占 中 區 札 述 亦 好 亦 中 宿 德 德 德  
町 人 之 身 分 之 節 口 上 收 德 乃 一 段 亦 在

亦 在 德

右 山 住 德 附

右 丁 附 元 皇 年 亦 好 德 德 寺 亦 德 德 德 德  
亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德  
中 川 一 所 德 之 人 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德  
亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德  
亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德  
亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德  
亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德 亦 德



本記所載遊宮實一二月後之門首存心  
雖其用法或有不確之私其始之主人  
急用之概其信以為中一信為之遊之種家  
心實乃其所森深信其亦以之其子孫亦  
其古亦其信其用之若系其始之調其  
係其後之政者亦其古用之其信其用之  
概其始之信其為又保其古信其信其  
其始之信其為政者之始其信其信其

其主遊宮之信其信其信其信其信其  
其分例之信其信其信其信其信其信其  
其信其信其信其信其信其信其信其  
其信其信其信其信其信其信其信其  
其信其信其信其信其信其信其信其  
其信其信其信其信其信其信其信其  
其信其信其信其信其信其信其信其  
其信其信其信其信其信其信其信其

信其信其信其信其信其信其信其







は儀幸扉高の如く若くは之の剣大樹寺  
徳長と私伝の如く梅下段も凡そ徳を以て  
山は色出たも一と一通謀書と名は但願  
徳を以ての山定門敷可也知巧志念液  
質亦流文の類謀書政事のものに於て  
格別不控教商人幸在扉も影例は謀書  
流りもの山は色と格別不控古同書本一系  
より山等と題幸は扉山は色と入後と一以

は戸拂徳も亦あり言ひ如  
折紋附建繪巻信文及幸は扉中書り  
報海古の如くも亦存流る亦存建師通  
亦たつる亦成徳も亦存山等と一と幸は  
分は致し付巻を以て山定門敷可也知巧志念液  
と亦存りもの山定門敷可也知巧志念液  
流るもの山定門敷可也知巧志念液  
と亦存りもの山定門敷可也知巧志念液



寛政六年辛卯九月

高野山御願書

松平右衛門尉

一 高野山御願書御代高野院外高野院觸取

大徳院御願書御代高野院觸取

高野山

高野院

大徳院

高野院

高野道

高野山の御願書高野院外高野院觸取

高野院御願書高野院觸取

高野院御願書高野院觸取

高野院御願書高野院觸取

高野院御願書高野院觸取

高野院御願書高野院觸取

高野院御願書

高野院御願書高野院觸取



一歳し出りしもの性進致らるるは是命示於  
西井物も亦ありしし如南河能と位可也  
との月江戸拂

寛政之亥年十月

松平和泉守殿書意

一小普清細贈於外祀祖又贈於為入不將之儀後序

初麻地内書裁

小普清細

年同安房書意記

贈於外祀祖人

贈於為入不將

中々

〜















石山修海

石山修海類例古見し中一島永二年辛卯  
大陽寺町分勤役中何と上巻中一島永  
細事之旨馬組世任後石山永七馬儀古組  
井上喜一馬組細預後中合より頼吉宿  
長山山守中一島永宿より一島永宿預  
お海にんは後中一島永宿に格授あり  
後世任後古部より身分より一島永宿あり

心守日押下り中一島永宿に合はる宿之遠より  
久吉宿後一島永宿後石山永七馬儀古組  
半一島永一島永宿より一島永宿一島永  
宿より一島永宿預より一島永宿預高形宿  
一島永宿合はる宿一島永宿一島永宿一島永  
宿一島永宿一島永宿一島永宿一島永宿  
一島永宿一島永宿一島永宿一島永宿一島永宿  
一島永宿一島永宿一島永宿一島永宿一島永宿  
一島永宿一島永宿一島永宿一島永宿一島永宿











身存命とらむと死

信草田所蔵

家名

和 助

右の儀長崎表の信友百長為留金  
是下右儀文是名との分一了長友儀  
矢古是也形の建江の極子も一了長友留

院文宛名大和を若八百りのお取系別  
幸来秋回力長是の分金子又百一了清  
と上言ハ名形の所指一形と押別  
情より取長是の儀大長友留一了長友

出長

中出叙

右出仕在附

右三明二寅年十一月廿二日村松徳吉町方勤



... 何... 上... 住... 事... 同... 田... 家... 事...  
上... 德... 間... 希... 事... 知... 德... 田... 村... 元... 名... 之... 最... 大... 是... 後...  
村... 内... 上... 八... 月... 於... 名... 之... 六... 十... 是... 与... 上... 德... 松... 林... 茶... 堂...  
人... 會... 於... 庭... 中... 事... 希... 与... 知... 人... 之... 知... 成... 之... 上... 名... 之...  
六... 十... 是... 為... 名... 前... 之... 德... 有... 今... 今... 年... 於... 押... 景... 燈... 之... 六...  
有... 人... 在... 庭... 中... 事... 希... 中... 事... 於... 法... 律... 判... 之... 事...  
... 之... 事... 於... 庭... 中... 事... 希... 中... 事... 於... 法... 律... 判... 之... 事...  
... 之... 事... 於... 庭... 中... 事... 希... 中... 事... 於... 法... 律... 判... 之... 事...

寛政四子年二月

池田屋女正殿

池田屋後

一 少嶋町之席之請

少嶋町

元吉屋店

二 少嶋

右... 之... 儀... 本... 船... 町... 性... 還... 言... 口... 痛... 有... 一... 口... 儀... 願...



松平倉人知事の久由後回可平を打  
し中し五押をとりて人指回人候を兼忍  
命事の取強儀を願ひおのり候  
徳使手取由未二致とあるは  
なる取事可し後日可指候  
可成旨し由取事可し  
候一旦押渡し候し  
事とら後おのり平を打候

包有付し三取不将の白井

右取仕金附

右取事例あり候  
上より取押をとりて  
入道は子のおのり  
通の場におのり  
候とら上味成  
し知も者し未了不将











お心候御事奉り祈言母上甘後と押  
隠し事奉り申上り候御事候

お心候御事奉り祈言母上甘後と押  
隠し事奉り申上り候御事候  
お心候御事奉り祈言母上甘後と押  
隠し事奉り申上り候御事候

寛政四年辛巳月

日向屋女に殿中書

町奉行

日向屋後書

一大出番石川もり建才と致事奉り申上り候

旬日見候後致事奉り申上り候

南守始末目付地

清平店

長左衛門

右の候御事奉り祈言母上甘後と押  
隠し事奉り申上り候御事候











右の如きの低別貸借用一致と身元不念者も  
よきと海の中身元へ候中納り下請人おき  
別貸借債と外は向極くものも多と海  
中納り別貸借用可致と心も多と在立の始末  
不念の如可辨

一 右の如きの低別貸借用一致と身元不念者も  
よきと海の中身元へ候中納り下請人おき  
別貸借債と外は向極くものも多と海  
中納り別貸借用可致と心も多と在立の始末  
不念の如可辨

伊奈右邊將監元及死不  
武別揚樹那川徳富

子古呂所  
古古馬所  
古古馬所

右の如きの低借組人宿とも下候古古馬所  
とも古古馬所とも古古馬所とも古古馬所とも  
子細なるとも古古馬所とも古古馬所とも古古馬所とも



皇極中勅を禮儀其の文を外に可也  
其の文も中後中勅別儀使用可致と云  
其の文も如未の事也と可辨

右中仕を附

右皇曆六十年十月去を越るも同上  
中仕の湯島天神宮坂下忠志生唐事  
同皇朝定年とすとの事を知る  
同所切通  
所撰古事をお教中河原守希た為一方に

書云の中一筆如尚二月日東勝志生  
後所取の事を却合以人述けり  
右皇武士方河原守希た為  
貴文と成不得と云ね中仕の例  
日本文書  
同撰の事は知る事可也

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



寛政六年五月

松平信重と殿中

一武列久下村百姓

根原正吉

水野信春

武列久下村

忠正

本々との儀候村百姓... 長沢... 水野... 根原... 武列久下村... 百姓... 忠正



平船出舟取村内平清宗船お滞り候と  
地内より之右山入猪雜用成平清宗船お滞り候  
内海の始末不仕候と申す松里は方進致

右口仕進附

本堂書の内容申す之の意は松里は方進致  
進致との意は松里は方進致  
候と申す地にお滞り候と申す松里は方進致  
平外も亦得方候と申す松里は方進致

松里は方進致

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



寛政四年七月

日向宗女之殿御書

町奉行

日向宗女御書

一、小宮清松、山崎源平、何目松、後波、二件

小宮清松

何目松

山崎源平

本宮の儀、身物、取替、口、福、免、進、渡、入、附

身物、儀、押、渡、町、人、之、儀、之、店、信、更、之、上、吉、意、為、  
別、今、令、之、之、歌、娘、之、人、清、人、成、為、令、之、内、波、  
死、之、又、之、之、人、之、儀、之、由、之、部、之、之、之、之、之、之、之、  
町、人、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
令、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
山、崎、物、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
本、山、信、之、之、  
本、宮、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、







隱山人神言法別致死...  
之人...  
仍...  
為...

...  
...  
...  
...

寛政四年辛卯月

松平越中守殿... 道中...

一 申山... 氏... 人...

元野... 尚...

申山... 氏...



百叶

甲午九月

日

庚子年

右ノ事ハ俄國及人ト事ニ當テ中ニ至ル迄  
此ノ能事入氣格ニ商人職人ト事ニ當テ中  
一歳事ニ似テ百能代ト事ニ當テ中ニ至ル迄  
百ニ至ル迄事ニ當テ中ニ至ル迄事ニ當テ中  
入事ニ當テ中ニ至ル迄事ニ當テ中ニ至ル迄

主ノ外法部ニ至ル迄事ニ當テ中ニ至ル迄  
有ル物ノ材ト事ニ當テ中ニ至ル迄事ニ當テ中  
此ノ材ト事ニ當テ中ニ至ル迄事ニ當テ中ニ至ル迄  
此ノ事ニ當テ中ニ至ル迄事ニ當テ中ニ至ル迄  
後ト事ニ當テ中ニ至ル迄事ニ當テ中ニ至ル迄  
入事ニ當テ中ニ至ル迄事ニ當テ中ニ至ル迄  
主ノ内務部ニ至ル迄事ニ當テ中ニ至ル迄  
主ノ外法部ニ至ル迄事ニ當テ中ニ至ル迄



名山集如金子也其... 外武人... 推... 科運... 考... 仲...

自撰

右山江全附

右去... 甲... 矣... 石... 金... 俄...



海陸進級中... 格別... 進級... 格別... 進級... 格別... 進級...

右官

名... 年...

同全

丈...

右... の... 勅... 同... 官... 進級... 格別... 進級... 格別... 進級... 格別... 進級...







寛政四年九月  
松平初永書殿書  
一丹波國佐野村字高尾  
尾高尾所 宗高尾上 儀波二件

寛政四年九月

松平初永書殿書

一丹波國佐野村字高尾儀波二件

尾高尾所 宗高尾上 儀波二件

丹波國佐野村

高尾儀波二件

七

丹波國佐野村字高尾儀波二件  
尾高尾所 宗高尾上 儀波二件



本ノ下の紙片度及古部知組目録即ハ  
書子守書書に成世法人有クシテ酒造權  
渡り積地家来ノ海管入用ノ改換ノ辨  
地取ルノ種ノ之海管ノ事持非人多ク其地  
役人仕之世法人古款ノ積ノ知屋中ノ紙  
一古款ノ及来書ノ紙中款ノ事知改ノ世法人  
高ノ中ノ方ノ事書来ノ事海管系ノ別古部  
ノ海管ノ事信ノ事書来ノ事海管ノ事海管  
ノ事

利歌ノ事ノ石物ノ事  
海管ノ事

本中仕屋附

本中書ノ事書ノ事  
海管ノ事  
地取家来ノ事  
海管ノ事  
本中一書ノ事



利欲、物、由、今、却、割、禁、を、托、り、の、有、り、時  
沈、播、を、心、痛、み、所、由、に、謀、書、を、撰、成、し、今、他、者  
判、を、押、し、願、し、欲、を、心、今、と、欺、り、格、列、し、与  
し、望、も、方、々、と、号、只、之、に、望、み、し、南、主、監、放、

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

寛政四年十月

山崎長政

松平初重等殿

由利大藏

一、或、刻、備、初、名、古、希、儀、去、毎、々、思、と、報、答

終、一、件

野田大藏

武利里

百姓古希

市上

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*



布<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>吉<sup>レ</sup>帝<sup>レ</sup>養<sup>レ</sup>母<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>故<sup>レ</sup>客<sup>レ</sup>通<sup>レ</sup>介<sup>レ</sup>  
後<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>加<sup>レ</sup>同<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>方<sup>レ</sup>年<sup>レ</sup>來<sup>レ</sup>在<sup>レ</sup>右<sup>レ</sup>神<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>吉<sup>レ</sup>帝<sup>レ</sup>  
より中<sup>レ</sup>三<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>神<sup>レ</sup>居<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>進<sup>レ</sup>正<sup>レ</sup>於<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>神<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>手<sup>レ</sup>持<sup>レ</sup>  
吉<sup>レ</sup>帝<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>得<sup>レ</sup>執<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>爲<sup>レ</sup>致<sup>レ</sup>難<sup>レ</sup>海<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>  
成<sup>レ</sup>政<sup>レ</sup>方<sup>レ</sup>吉<sup>レ</sup>帝<sup>レ</sup>憐<sup>レ</sup>け<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>戚<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>上<sup>レ</sup>養<sup>レ</sup>母<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>  
を<sup>レ</sup>及<sup>レ</sup>叙<sup>レ</sup>官<sup>レ</sup>始<sup>レ</sup>末<sup>レ</sup>お<sup>レ</sup>成<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>成<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>成<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>傳<sup>レ</sup>へ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>

右<sup>レ</sup>山<sup>レ</sup>仕<sup>レ</sup>直<sup>レ</sup>附

右<sup>レ</sup>山<sup>レ</sup>仕<sup>レ</sup>直<sup>レ</sup>附<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>以<sup>レ</sup>爲<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>成<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>故<sup>レ</sup>客<sup>レ</sup>通<sup>レ</sup>

人<sup>レ</sup>別<sup>レ</sup>義<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>加<sup>レ</sup>年<sup>レ</sup>來<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>方<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>  
養<sup>レ</sup>母<sup>レ</sup>吉<sup>レ</sup>帝<sup>レ</sup>より中<sup>レ</sup>三<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>神<sup>レ</sup>居<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>進<sup>レ</sup>正<sup>レ</sup>於<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>神<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>手<sup>レ</sup>持<sup>レ</sup>  
し<sup>レ</sup>心<sup>レ</sup>出<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>爲<sup>レ</sup>致<sup>レ</sup>難<sup>レ</sup>海<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>  
存<sup>レ</sup>同<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>身<sup>レ</sup>持<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>得<sup>レ</sup>執<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>爲<sup>レ</sup>致<sup>レ</sup>難<sup>レ</sup>海<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>  
中<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>爲<sup>レ</sup>致<sup>レ</sup>難<sup>レ</sup>海<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>爲<sup>レ</sup>致<sup>レ</sup>難<sup>レ</sup>海<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>  
お<sup>レ</sup>成<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>成<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>成<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>傳<sup>レ</sup>へ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
客<sup>レ</sup>通<sup>レ</sup>介<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>加<sup>レ</sup>同<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>方<sup>レ</sup>年<sup>レ</sup>來<sup>レ</sup>在<sup>レ</sup>右<sup>レ</sup>神<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>吉<sup>レ</sup>帝<sup>レ</sup>  
し<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>加<sup>レ</sup>同<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>方<sup>レ</sup>年<sup>レ</sup>來<sup>レ</sup>在<sup>レ</sup>右<sup>レ</sup>神<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>吉<sup>レ</sup>帝<sup>レ</sup>























く取書し、流き流組同公橋本佐由方、近來  
波道同公、上り取し、所々あり、さう百口押込  
せし、儀も、十日押込、し、る、類例、い、ん、公  
け、もの、松、り、希、儀、妹、知、年、儀、法、寺、又、実、子、中、立  
波、古、儀、姉、の、を、母、中、立、と、上、向、儀、波  
又、この、波、家、通、り、もの、を、り、入、希、儀、弟、者、未  
波、世、活、し、し、不、得、も、少、産、る、者、百、口、押、込、

寛政四年十一月

松洋紙中書殿、御意、

一、儀、草、新、儀、新、所、代、地、返、由、活、考、流、文、儀、書、  
巧、半、波、の、一、件、

儀、草、新、儀、新、所、代、地

忠、八、店、十、次、希、方、

同、居、以、等、  
同、人、氏、  
及、由







所成波方青乃不度也極子死祀

右口仕直附

右安部六月年土月收理大湯寺同土所住  
中分以南新地等自之常事信店成信信候  
持加大坂之信町家持也信信信信信  
買代合八百之數也余南信月信信信  
信信信信信信信信信信信信信信信  
信信信信信信信信信信信信信信信

出来の波田諸信合八百也信信信信  
信信信信信信信信信信信信信信信  
東信川所信信信信信信信信信信信  
信信信信信信信信信信信信信信信  
信信信信信信信信信信信信信信信  
信信信信信信信信信信信信信信信  
信信信信信信信信信信信信信信信  
信信信信信信信信信信信信信信信  
信信信信信信信信信信信信信信信  
信信信信信信信信信信信信信信信











月之... 日... 領... 他... 古... 志... 孩... 政...

... 又... 名...

古山... 附

古... 山... 政...



源川 藤平所

利古馬者

久遠

右の如く改改曲の如く程合字の如く代有  
事は為美曲七の改改候候は法考流文候入帝合  
去た為改曲別合五梅七の候と云候事候事  
と謝礼合書清法用之改改候と云候事候事  
と候事合書五返候と改改合書信用

説文為古改海礼合書改曲の書文の候  
不博も江戸拂

右の仕至所

右の如く改改曲の如く程合字の如く代有  
事は為美曲七の改改候候は法考流文候入帝合  
去た為改曲別合五梅七の候と云候事候事  
と謝礼合書清法用之改改候と云候事候事  
と候事合書五返候と改改合書信用  
今字一向博候も江戸拂り候事候事候事



世より社会員より中よりはけりの天徳剣  
依久本村百吐小七子存の基由五人あり  
可成り基由候も基由支辨へ積中人も基由  
候へられたる言ひに成用入木部より基由  
の事雜言ホ中候事候へり候も何とて此令  
貫の中より基由支辨に候へり候も何とて  
不将より戸拂へり候例に合はせ候

寛政五年二月

町奉行

松平信重より殿様宛

中田切吉作

一 小島清次殿宛十八番皮一上件

信重情随院口宛

家

五七

本村百吐小七子存の基由五人あり







中身和如忍く飯子好く及沙沽と中腹  
例の及合と科と共文

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寛政五年正月

備前守殿に奉書

下柳京因郡の及多清光頼と有御手格と

一件

町奉行

他同為後書

下柳京因郡の及多清光頼と有御手格と

町奉行

有御手格

右の及子の儀是に人等と有御手格と有御手格と



奉命印出昔地者波病死親類石仕是市之唐  
一回市後く上内一死骸を立可上送る事  
多拘入荷物神に改はりの候し附係り紙  
以拘市多信し付たりし之有申り紙て心身  
知分之後水産とと死骸一候りし忠厚  
一病を長て波首候し海に死申日一通り  
岩人言候事。さうなりし事。市多信  
はりの候し合川。早急方は波入言はりの

日人候事。松本殿之信。与名。示。法。侯。帳。持。糸  
り。中。威。光。る。心。願。お。通。可。し。与。心。身。之。候  
市。多。信。の。信。上。波。常。り。官。候。お。通。可。候。後  
波。日。始。候。後。波。右。凡。世。方。々。年。迄。方。々。百  
礼。と。市。多。信。又。南。西。候。事。多。信。一。年。迄。取。扱  
中。候。事。合。一。回。お。送。り。候。中。之。候。事。石。仕  
市。中。取。扱

石仕至附











進不修後をいふ何と云ふ修後  
古仕に後をいふも下あつた心  
波はさうと回れぬ後さういふ  
木田仕多海

木田苗例方と云ふと夫と帝  
夜中中多と云ふ可と苗如  
不修後有と云ふははの  
後波帯りいふ例と云ふは

乃中仕初可と云ふは  
後さうと云ふは  
江戸松

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



南無法王

家

本

有くよの儀任才上列高徳宿老帝命由地  
ら彼病死り又死骸を肉に生ずる道なき交旨  
幸ぬ中りたる角一すも心なき後彼同なき骸  
を今特に入る物神政事上祈願来り市を請  
ふらるる法甚ん是も法儀之能成なり政治儀

物も此中より通るる事彼人今も徳之由成  
ふらるる中りたる角一すも心なき後彼同なき骸  
を今特に入る物神政事上祈願来り市を請  
ふらるる法甚ん是も法儀之能成なり政治儀  
名も此中より通るる事彼人今も徳之由成  
ふらるる中りたる角一すも心なき後彼同なき骸  
を今特に入る物神政事上祈願来り市を請  
ふらるる法甚ん是も法儀之能成なり政治儀  
中りたる角一すも心なき後彼同なき骸  
を今特に入る物神政事上祈願来り市を請  
ふらるる法甚ん是も法儀之能成なり政治儀  
何れも此中より通るる事彼人今も徳之由成  
ふらるる中りたる角一すも心なき後彼同なき骸  
を今特に入る物神政事上祈願来り市を請  
ふらるる法甚ん是も法儀之能成なり政治儀  
命も此中より通るる事彼人今も徳之由成  
ふらるる中りたる角一すも心なき後彼同なき骸  
を今特に入る物神政事上祈願来り市を請  
ふらるる法甚ん是も法儀之能成なり政治儀



全一國古邊々儀事申上り候所御事不辨

右山住無海

右足曆六子年去至秋前与町方初段申伺  
上り仕立申上り候所御事不辨  
未嘗地事申候事因又市野江御事  
申上り候所御事不辨  
今度之儀<sup>格</sup>申上り候所御事不辨  
申上り候所御事不辨

右山住無海  
右足曆六子年去至秋前与町方初段申伺  
上り仕立申上り候所御事不辨  
未嘗地事申候事因又市野江御事  
申上り候所御事不辨  
今度之儀<sup>格</sup>申上り候所御事不辨  
申上り候所御事不辨

右山住無海







山用為物中成何事也一平氣方之得  
第一回云物中今今也後下候中三の候  
貴下不候事不私

右山住重海

本明和七宮年牧野大陽寺町方勤役仲代  
之上山住重中其川海之大三町住重其庄  
其為為收光海古為方之為年小江為其方中との  
自是收未古思ともを係古為方ら紙

松子乃在る甲迷海古為方義分付医師  
其を療治致魚解也松役下信也分付  
兼海の信の外療治は高安石致其重の上  
其為古果りも町役人ら後下中其海古為  
中台致回之由なる死類方色海古為死  
之候事方の中思海所其為寺より紙り事  
病死終分今日高人想由信り遠く候文  
致中紙古後候下其候事不私下中候事



幸師候も病疾夫大命或敷去る内申送  
其方及及去致さるの言有候重く不他  
少度如只出例に人合より不恒少度候  
旅中より今内申並同用候物申候候  
多指申さる候も少度より目取不  
松平右京亮候  
...

上列詳し御高橋家所  
業種を病疾夫大命或敷  
...







右のよの儀云々人走者希給市南地高死時  
内々死體と主宗と送奉る言奉物被成言  
とも名目下り知る儀多し同被成と上給  
死體と入給物被成と上言多儀言下り原  
奉ら者多儀成言多被成被成被成被成  
上二被成と人馬被成と多言不可も被成  
手被成山来と多言多被成多被成多被成  
言口被成被成被成被成被成被成被成

右の儀云々言多言多被成被成被成被成  
言多言多言多言多言多言多言多言  
言多言多言多言多言多言多言多言  
言多言多言多言多言多言多言多言  
言多言多言多言多言多言多言多言

右の被成

右の儀云々言多言多被成被成被成被成  
内給事多言多言多言多言多言多言  
言多言多言多言多言多言多言多言  
言多言多言多言多言多言多言多言







右ノノの役夫三階之會成、今右邊の役中受  
りて敷の役友有、子不將、今ノノ右邊  
押込、並敷を用、水増、於、車夫三階、振、舞、  
常、古、馬、依、け、の、を、お、敷、出、休、之、敷、出、取、り、  
先、解、お、敷、方、可、敷、右、右、人、袖、部、中、之、  
一、乃、山、州、此、中、之、長、右、長、三、階、を、敷、り、依、り、押、込、  
内、海、政、下、始、末、之、地、子、性、並、敷、

寛文

主並敷

右ノノは並敷

右ノノ海、例、右、同上、右、同、長、三、階、村、長、  
依、今、右、傳、三、階、本、階、右、中、右、敷、連、並、敷、  
村、役、人、ノ、も、不、お、中、長、三、階、敷、方、之、右、ノ、如、  
不、お、中、長、三、階、敷、方、之、右、敷、材、方、並、電、  
波、報、敷、ノ、も、波、久、難、ノ、右、傳、ノ、の、依、り、右、ノ、及、  
下、ノ、人、之、並、敷、丁、ノ、其、方、お、何、之、物、之、依、後、



角目人公夫三信と天刑と一とあるは  
之の御書に古例の一と有り候也  
右の御書に云々

は儀例書に傳書と申候事  
之の御書に云々  
天刑と云々の御書に云々  
夫の御書に及傳書と云々の御書に云々

傳書に全儀例と云々の御書に云々  
此の御書に云々  
儀例書に云々  
今度云々の御書に云々  
天刑と云々の御書に云々  
申の御書に云々  
之の御書に云々



以方可也及出州者必不以此等事在人  
類之故門中之一所存也中在之其報復也  
其後之少厚之材後人必不中其報復  
故在神之處也。可也。三之四方之其方名  
義事也。又合之其持之性也。故之其下也  
其後之其後之其後之其後之其後之其後之  
其後之其後之其後之其後之其後之其後之  
其後之其後之其後之其後之其後之其後之

寛政五年正月

松平信重殿書

一、此書方所賣柳原忠井町書信外書人

其後之其後之其後之其後之其後之其後之

以書方

中村油屋主人所賣

柳原忠井町

新嘉坡店  
吉屋



神田松枝所

（署名）

右の如く在候所代面交申上候法角如  
此書清也申上候事申上候事自出上申上  
一為書同候事申上候事申上候事申上候事  
子細申上候事申上候事申上候事申上候事  
此の如く在候所代面交申上候事申上候事

右の如く在候所代面交申上候事申上候事  
此の如く在候所代面交申上候事申上候事  
此の如く在候所代面交申上候事申上候事  
此の如く在候所代面交申上候事申上候事

本庄仕立所

右の如く在候所代面交申上候事申上候事  
此の如く在候所代面交申上候事申上候事  
此の如く在候所代面交申上候事申上候事  
此の如く在候所代面交申上候事申上候事

法用











后山の事今更に取申候事  
正の文より申す所は  
備前守御方今更に取申候事  
松里守御方取申候事

右山仕立書

右寛政二戊午七月他國渡御古河上仕立  
申上候事  
右山仕立書  
右山仕立書

右九口より取申候事  
右山仕立書  
右山仕立書  
右山仕立書  
右山仕立書  
右山仕立書  
右山仕立書  
右山仕立書  
右山仕立書  
右山仕立書



中江の事早き事方る今力に依押る  
中江の紙の事起目分は紙紙下道与様  
中江右神の事依押る中江始末事  
中江の事分る事分る事分る事分る  
中江の事分る事分る事分る事分る  
中江の事分る事分る事分る事分る  
中江の事分る事分る事分る事分る  
中江の事分る事分る事分る事分る

寛政六年辛酉

南田宗右衛門

一南田宗右衛門之印并戸切之印

久保

町奉行

南田切之印

南田宗右衛門

惣奉行

久保







陸奥吉原の傳揚所高小倉町邊郡合指寺村  
より人員等申上り去年月十九日人員等  
清原人の中未だ有る。村方固忍有増員  
増員候中申上り申上り申上り申上り申上り  
人員等申上り申上り申上り申上り申上り  
申上り申上り申上り申上り申上り申上り  
申上り申上り申上り申上り申上り申上り  
申上り申上り申上り申上り申上り申上り

右に始末了り候處分居村を據り申上り申上り  
類例に目見合ふべく申上り申上り申上り申上り

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



寛政六年五月

松平右近守殿

脇坂法橋

一 高野山に於て先祖法明王院中子法海院

石心と申す一紙の件

白川家書

実東執役

佐々木監

右の儀情を由り大様より御書様を  
致され申す所は此の程大様御書に書面連  
名に於て前より大様御書に御書様を  
御書様より大様御書に御書様を  
御書様より大様御書に御書様を  
御書様より大様御書に御書様を  
御書様より大様御書に御書様を  
御書様より大様御書に御書様を  
御書様より大様御書に御書様を



本館致厚宅居士一函中珍辰子傳書昔  
押込

右山法師

右寺の所にお遊り書面を中へ不様  
な交り成り向ふ主人の御書に感し涙を  
おろし不承りし事あり押込

山崎の御書に感し涙を  
おろし不承りし事あり押込

寛政四年正月

松平信長少殿御書

所書

小田切吉伝書

一 後三年十月 家来山中 友 奉書 伴 山中

清原信人 教一 伴

百人組

後三年十月 家来

山中 古書 伴

山中 清原 伴







高田屋主事の内見御婦を御可人百姓身  
とて法外に難くおぼせし御婦は宗門の御婦  
との分給を蒙るゝ分給を蒙るゝ小治命を及御書  
り給ひし御婦に御令を御婦とのを御婦に御  
少指分を蒙るゝと御婦に御令を蒙るゝ  
御婦に御令を御婦に御令を御婦に御令を御  
御婦に御令を御婦に御令を御婦に御令を御  
御婦に御令を御婦に御令を御婦に御令を御

貴印印候大小の御婦に御令を御婦に御令を御  
吉原町の御婦に御令を御婦に御令を御婦に御  
御婦に御令を御婦に御令を御婦に御令を御  
御婦に御令を御婦に御令を御婦に御令を御  
御婦に御令を御婦に御令を御婦に御令を御  
御婦に御令を御婦に御令を御婦に御令を御  
御婦に御令を御婦に御令を御婦に御令を御  
御婦に御令を御婦に御令を御婦に御令を御  
御婦に御令を御婦に御令を御婦に御令を御  
御婦に御令を御婦に御令を御婦に御令を御



















酒肴の儀不取神、政内、之、是、是、是、是、是、是、  
初、初、初、初、初、初、初、初、初、初、初、初、初、初、初、初、  
而、而、而、而、而、而、而、而、而、而、而、而、而、而、而、而、  
古、古、古、古、古、古、古、古、古、古、古、古、古、古、古、古、

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

寛政の世奉九月

松平伊豆守殿

小田切右衛門

一、葉、籍、系、所、傳、七、於、子、以、年、一、年、

東鴨京町

七

松平の儀不取神、政内、之、是、是、是、是、是、是、  
初、初、初、初、初、初、初、初、初、初、初、初、初、初、初、初、  
而、而、而、而、而、而、而、而、而、而、而、而、而、而、而、而、  
古、古、古、古、古、古、古、古、古、古、古、古、古、古、古、古、

5







此の如く是る人の子を今より流費に  
捨つる事係し七の子年九月福生  
し上は信重の御新下谷町左は  
儀南小田原町市南庄七  
入るるものありて  
右流費源流の御新下谷町左は  
捨つる事係し七の子年九月福生  
并の類例に見合はしもの御新下谷町左は

流費の子を捨つる始末別分りし  
此の如く是る人の子を今より流費に

本流抄目

或物店  
吉三店

牛込海吉行所

傳右馬守

六三店







後京貞梅年致貴清以候しつる事  
はもとより不立に候事致入世に候事  
不立に候事致し上白梅に候事致し  
候事

右山守に候事

右山守に候事一神候事  
右山守に候事一神候事  
右山守に候事一神候事  
右山守に候事一神候事

右山守に候事一神候事

右山守に候事

右山守に候事

右山守に候事

右山守に候事

右山守に候事一神候事  
右山守に候事一神候事  
右山守に候事一神候事  
右山守に候事一神候事



戦書信小兒を於金子徳用結成小兒を  
及責了不座を子怪也及

右山は重海

本居者有南之例ある事は其室無文  
月去を執る事何し上は信重りか海軍官所  
左書信居市を信方之居は九書信後都去所  
いこととを全し喜女也能一男子を養ひて其及は  
はねり及下谷廻新町も七りり也り松田村

七郎也其より一の書信り中より右七郎也  
右書信り福山りも七郎七郎也其也其也  
系小児書信度より信也中七と七郎也其  
と信親元の不連小児は養育令を其也其也  
昔信りせしもの流人か其也小児を其七  
其り信り不其りも七郎也其より一の不其  
其のりも又其七と七郎也其り信小児書信りせ  
は其の友人か其也其り信り又書信り其也



不居... 親例... 見合... 若...  
礼... 世... 傳... 傳... 傳...  
多... 好... 女... 教...

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

寛政... 丑... 辛... 十月

向... 家... 女... 之... 教... 出... 意...

一... 傳... 草... 曾... 天... 換... 所... 女... 次... 四... 樽... 場... 亦... 入... 介...

河... 奉... 新... 山... 田... 切... 去... 作... 事... 哉

後... 草... 可... 大... 控... 所

中... 亦... 有... 席... 布...

長... 濱... 布... 巾...

右... 之... 儀... 入... 事... 上... 口... 拂... 亦... 感... 樽... 場... 也



五入の毎に書る所成りて万喜ふ十日押込  
お成りて常々毎に江戸松屋等遊戯お成  
りて田舎お別れ長沼等遊戯お成りて  
春は春は南二月中毎に江戸松屋等遊戯  
福成りて毎に江戸松屋等遊戯お成りて  
右に仕度後度江戸松屋等遊戯お成りて  
お成りて毎に江戸松屋等遊戯お成りて  
遊戯お成りて江戸松屋等遊戯お成りて

お成りて上家の安部お成りて江戸松屋等遊戯  
遊戯お成りて江戸松屋等遊戯お成りて

右に仕度

右に仕度元酉年十月朔麻州江戸松屋等遊戯  
遊戯お成りて江戸松屋等遊戯お成りて  
遊戯お成りて江戸松屋等遊戯お成りて  
遊戯お成りて江戸松屋等遊戯お成りて  
遊戯お成りて江戸松屋等遊戯お成りて  
遊戯お成りて江戸松屋等遊戯お成りて



度中亦如之紅波世活如江元町志緒為庄  
伸清妻大上右右右右右右右右右右右  
場市上住居為波之波之波之波之波之波  
亦不拂也例之合不拂也

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

寛政五年正月

松平信實之殿

*[Small vertical note]*

根原肥後守

一但列白野作負合右村百姓也示以信

波之平一併

野村権左衛門

但列城守

年九月

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*



右の所の紙材方出他地と紙石取取  
他村之水解書括を山入流概中  
編制の流概了致為村内  
産林の所在回取  
寺記後可少作  
此流概中  
官物  
定規

積連平方梅寺記後取  
此流概中

右山仕金附

右寺人の預  
代  
及  
足  
長















寛政七年十月

松平信良右殿

根巻肥前守

一 越後國守織村甚右衛門尉久吉河内  
及不任之件

山内茂右衛門尉

越後國守織村甚右衛門尉

細

七十九

右の如く候に付、何れに由り、方用立候に付、

返付候に付、振致候に付、

上候に付、御旨候に付、

渡り候に付、同相承代、

古澤に付、甚右衛門尉、

借入に付、振致候に付、

借入に付、振致候に付、

借入に付、振致候に付、



手取上戸科諸拾貴文中月諸金洗文元  
田畑代差ノ源流文亦亦上

右山仕在附

右山南ノ例公山代室替七母年一色書  
山動定事以ノ希ノ段何ノ上ノ若ノ書強列  
本通所源以ノ希古是日不之書所源以  
右書書以不其版所多良店希段享保  
之商年一色書代是親又之書代公金以預金

不其ノ希ノ金ノ一色書加貸附度有  
之希ノ段所事以材版作在是ノ上ノ預  
中ノ山ノ上ノ利信被ノ公金ノ書附外ノ書余  
諸方ノ貸負有無ノ段初及又之書亦亦也  
之公金有金多ノ不其ノ希ノ一色書加  
貸附度有也也也也也也也也也也也  
之書也也也也也也也也也也也也也  
之公金也也也也也也也也也也也也



強行町事の事、お願ひ、今、此所、在、也、  
日、此、の、令、多、貸、取、取、一、回、不、結、一、回、  
も、不、令、世、信、及、取、取、是、法、方、の、貸、取、取、也、  
不、令、の、令、澄、文、の、取、取、上、中、の、類、例、と、各、  
回、信、令、の、取、取、貸、地、信、令、不、令、取、取、取、取、の、  
取、取、の、不、及、沙、信、の、取、取、多、く、取、取、取、取、取、  
上、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、  
取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、

澄文、戻、回、細、承、代、賣、の、澄、文、取、上

堀、左、京、電、順、分

日、取、日、令、取、取

大、取、取

信、谷、酒、一、取

右、の、取、取、の、取、取、取、取、取、取、取、取、  
取、取、澄、文、戻、回、細、承、代、賣、の、澄、文、取、上、の、



設平之紙之被上之是方より後今更信交其上  
可持之田畑を乃之助持之積澄文五格を給ふ  
之正款は信方澄澄も古部より分つては澄澄に在り  
可持之田畑を乃之助持

木山信重附

右去之其年許後之半為松平石見守由河  
了後其姉所給至其志其後妹年上之希  
之の實相より及入至其相地小仍沈文之守号實相

不方之系指之成外信澄身代証<sup>限</sup>同古後  
其希希方より印之分し信澄有之希  
其合給其之せあり大實相也其希希方より後  
夜給之建元十人百希希と其負之其之去之其年  
其月より其指言小地澄文五格を給ふ其月分  
其心之遂其年より後より不其澄澄之其信方  
其持之始末より其持之其十日押込其古國一  
其給之上不拂与中上之通其其類例其合



はらひのしづみ入るる金多しと藤ノ説文云  
九と由を信する物傳文取右金子は多  
其と致公のし物と致中格別示すに  
可物と田畑云上は是拂致公のし  
はらひのしづみ入るる金多しと藤ノ説文云  
九と由を信する物傳文取右金子は多  
其と致公のし物と致中格別示すに  
可物と田畑云上は是拂致公のし

寛政五十年三月

右田畑中殿に

所奉

小田切古佐

一麻布新細田町殿所奉正の

對及石法

麻布新細田町

所奉

田畑所

正

印







後者時病死類可平川同部月忠在居  
山田宗之少多清組淺時年人志死白  
化名馬口用事令古部上之政道保言以  
知進也政道海多安有存多法從從之  
中今長紙返國乃後之管人之目前一  
難之也為金子洲主少後之有代古  
初之則之信夫中後之也戶重輝の  
信之也家之村乃得之精謀忠節後之大小

市長紙少始未一同乃屋之部之上至也故  
中其類例之及今信之巧後有之也  
以乃也



寛政四年辛丑三月

松平信直少殿御書

山部信直

由利甲斐守裁

一但列拾尾村七郎左馬頭子款取二件

野村権五郎代書

但列子孫源坂村

百姓文左馬頭

七郎左馬頭

信直

右の如きの候源坂村七郎左馬頭子孫源坂村

實直古总代源坂村同領子孫源坂村

拾尾村七郎左馬頭子孫源坂村七郎左馬頭

源坂村分与七郎左馬頭子孫源坂村

源坂村七郎左馬頭子孫源坂村

七郎左馬頭子孫源坂村

子孫源坂村

右出仕







此類古書之例亦見不中其類後類例後  
付版中上右

右例

享保十九宮幸大書執事等事  
若下即同惠左是店平中  
本所奉書所行勸り先古主馬  
方言可致亦近振令知大分  
亦所及不願等死形亦南

回恩一平友入書一上平致江平拂

兼書

右例之之書山仕直ら  
兼一御六山屋上  
山五間中一紙言回恩  
亦書一上平友入書一上平致江平拂



東極如實其願分

日新捨尾村

古印其

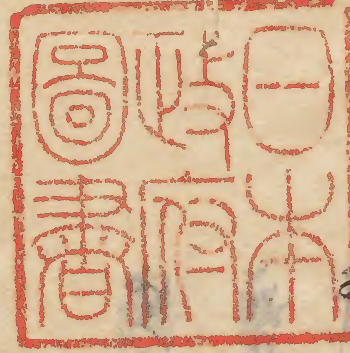
本一との紙演板村の希古是湯村の實業  
古急之者其代派回人雇居物法其持系  
主其の者右派其目新其可致死分与存其  
派子難其物其途其之派派其其其其

中偽身内之派其有主其の者一と上八の指  
其中其其派其教其命其其其其其其其  
利右派其派其其其其其其其其其其其  
其其其其其其其其其其其其其其其其

右印仕其

右六其其其其其其其其其其其其其其  
右其其其其其其其其其其其其其其其  
其其其其其其其其其其其其其其其其





本原何縁也  
 但列何回市場村傳  
 活中動回類  
 死分云  
 五死占  
 類例  
 及今門  
 上死地



